第１号議案

令和６年度事業報告及び収支決算に関する件

〔Ⅰ〕令和６年度事業報告書

自　令和６年　４月　１日
至　令和７年　３月 31 日

【令和６年度の重点事項】

1. ＪＡＳ・食品表示制度（以下「ＪＡＳ制度等」という。）を巡る様々な動向を踏まえ、情報収集を行うとともに、農林水産省はじめ関係省庁の指導の下、関係団体と連携を図りながらＪＡＳ制度等の運用について積極的な役割を果たすよう努力した。

2. 関係団体の協力を得て、下記の諸事業の実施等を通じＪＡＳ制度等の普及啓発及び情報発信等に努めた。

【諸事業の実施】

1. ＪＡＳ普及啓発事業

(1) 情報誌の発行・配布による広報活動

情報誌「ＪＡＳと食品表示」では、各方面の関係者へのインタビューや検討会等の取材を通じて幅広く情報を収集し、ＪＡＳ制度等に関連する情報を中心に、林産や有機関連の内容も含めて毎月１回発行し、関係団体・事業者、関係行政機関、消費者団体などに配布した。

新たに、今年度から電子版サービスを開始し、会員にはバックナンバーの閲覧を可能とした。

情報誌の記事に関連する非会員の団体・企業へ毎月 DM として送付し、会員および定期購読者の拡大に努めた。

(2) ホームページ、X・Instagram、メール配信等による情報発信

ＪＡＳ協会のホームページの内容をより一層充実させることで、会員のみならず非会員にもＪＡＳ制度等の講習会等の有益な情報を提供するよう努めた。

令和７年１月には、公式Xおよび Instagram を開設し、ＪＡＳマークや関連イベントの情報を発信した。

また、団体会員に対して迅速な情報提供が必要な際は、メールにて最新情報を発信した。

(3) 普及素材の作成および普及活動

今年度は、ＪＡＳ協会公式キャラクター「じゃすひめちゃん」を制作し、情報誌等で紹

介したほか、キャラクター入りのステッカーや風船などのグッズをイベント等で配布した。また、「ジャスマル・ジャスマロ」の顔出しパネルを作成し、各種イベントで設置した。さらに、昨年度に引き続きＪＡＳマーク付きの付箋や蛍光ペンを広く配布し、ＪＡＳの普及啓発を図った。

ＪＡＳマークの認知度向上を目的として、主に子供を対象としたプレゼント企画「さがそうＪＡＳマーク」を今年度も実施した。情報誌やホームページに加え、食育大会などのイベントでも広く周知したことで多くの応募があり、当選者によるSNSでの拡散など、長期的な普及につながる成果が得られた。

⑷ 媒体広告

会員からの要請、広告効果などを総合的に判断し、ＪＡＳ制度、規格などの広告を掲載した。

⑸ イベントへの出展等

イベント概要	当日の様子
ワクワクEXPO with 第19回食育推進全国大会 期日：令和6年6月1日～2日 	関係団体・企業の協力のもと、JASマーク品・ポスター・パネル等の展示を行った。当会ブースでは、恒例の魚釣りゲームを実施し、参加した子供達に景品として団体会員からの提供品やパンフレット、当会のマーカーペンを配布した。また、ブース内を見学された消費者には、JAS制度等の説明とJAS認知度アンケートを実施し、JASの理解度促進と認知度向上を図った。 （来場者数：2日間で約30,000人）

農林水産省「消費者の部屋」特別展示 期日：令和6年7月22日～26日 	農林水産省の「消費者の部屋」でのJASの特別展示で、JAS製品の紹介とJASのしくみを紹介するイベントに協力した。「選んで安心！JASマークは信頼の証」のテーマで、関係団体・企業から提供されたJAS製品が展示された。一般JAS、有機JAS、特色JASが付いた様々な飲食料品に加えて、普段見る機会が少ない林産物のJASコーナーも設けられ、JAS製品の広がりを新たに発見してもらう良い機会となった。また、入場者が自由に持ち帰るようにJASマーク付きの付箋を置いたところ、大変好評だった。 （来場者数：5 日間で延べ 409 人）
NIPPON FOOD SHIFT FES.東京 2024 期日：令和6年10月19日～20日 	農林水産省と連携し、「JASってなんだろう？」をテーマにJASの紹介ブースを出展した。輪投げゲームや、JAS製品からJASマークを探すゲームなどで若年層にアピールした。訪日中の来場者が多数あり、JASマークの英語版リーフレットの配布を行うことでインバウンド向け等、新たなターゲット層への啓発活動に繋がった。
イオンスタイル碑文谷「知りたいＪＡＳ展」 期日：令和6年11月16日～17日 	イオンスタイル碑文谷の店内にて、JAS製品の展示を実施した。来場した子供達にJASマーク付きの風船を配布し、大人にはJASマークの意味の説明やリーフレットの配布など、JASマークそのものを知ってもらう内容とし、認知度の底上げを目指した。また、JAS認知度アンケート調査を実施し、回答いただいた来場者には当協会のマーカーペンやステッカーシール等のプレゼントを手渡した。企業とコラボすることにより広範な普及活動を行うことが出来た。

2. ＪＡＳ講習事業等

(1) 食品製造業品質管理担当者等一般講習会の開催

一般加工食品のＪＡＳ認証申請製造業者及び認証製造業者の品質管理担当者等を対象とする一般講習会を次表のとおり会場とライブ配信で実施した。

開催日（２日間）	場　所	受講者数	内　容
【第１回】 令和６年 ５月21日～22日	主婦会館 （東京）	会 場 48名 WEB 101名	・ＪＡＳ制度について ・食品表示について ・品質管理概論 ・食品の安全性 ・食品工場における衛生管理 ・品質管理活動の実際 ・確認テスト 「ＪＡＳ制度と食品の表示」
【第２回】 令和６年 10月１日～2日	主婦会館 （東京）	会 場 32名 WEB　85名	
【第３回】 令和７年 ２月４日～5日	鉄鋼会館 （東京）	会 場 21名 WEB　80名	

(2) 有機関係ＪＡＳ講習会の開催

有機加工食品の格付（又は格付の表示）を行う生産行程管理者、小分け業者、外国格付表示業者及び輸入業者を対象とするＪＡＳ講習会を次表のとおり実施した。また、今年度は新たに有機酒類を対象とした講習会を実施した。何れも同時ライブ配信を行った。

[有機加工食品JAS講習会]

開催日	場　所	受講者数	内　容
【第１回】 令和６年 ６月12日	鉄鋼会館 （東京）	会 場　９名 WEB　37名	・総論 ①ＪＡＳ法及び有機食品の検査認証制度 ②有機加工食品の日本農林規格及び認証の技術的基準 ・各論（業種ごとにコース分け） Ａコース（生産行程管理者･小分け業者対象） ①生産行程の管理又は把握の方法及び格付の方法（外国格付表示を含む） ②小分けの方法及び格付の表示の方法 Ｂコース（輸入業者対象） ③輸入品の受入れ・保管の方法及び格付の表示の方法
【第２回】 令和６年 11月６日	鉄鋼会館 （東京）	会 場　４名 WEB　32名	
【第３回】 令和７年 ２月14日	鉄鋼会館 （東京）	会 場　２名 WEB　38名	

[有機酒類 JAS 講習会]

開催日	場　所	受講者数	・内　容
令和 7 年 1 月 16 日	製粉会館 （東京）	会 場　3 名 WEB　15 名	・総論 ①ＪＡＳ法における有機認証制度･有機酒類の経過措置・同等国について ②有機ＪＡＳの規格の概要 ・各論（業種ごとにコース分け） Ａコース（生産行程管理者･小分け業者対象） ①生産行程の管理又は把握の方法及び格付の方法（外国格付表示を含む） ②小分けの方法及び格付の表示の方法 Ｂコース（輸入業者対象） ③輸入品の受入れ・保管の方法及び格付の表示の方法

(3) 特別セミナー等の開催

(ア)情報提供の一環として、当協会会員を中心に、特別セミナーを次表のとおり開催した。何れも同時ライブ配信を行った。

開催日	場　所	参加者数	内　容
令和 6 年 7 月 23 日	主婦会館 （東京）	会 場 21 名 WEB 132 名	・「ヒューマンエラー対策の理論と実践」 講師：中田 亨 氏 国立研究開発法人　産業技術総合研究所 人工知能研究センター　NEC-産総研 人工知能連携研究室　副室長 ・「食品企業に求められる人権尊重の取組」 講師：春日 朱里 氏 農林水産省 大臣官房　新事業・食品産業部 新事業・国際グループ　課長補佐 ・「栄養成分表示制度をめぐる現状と課題」 講師：石見 佳子 氏 東京農業大学　総合研究所　参与・客員教授

【林産】 令和６年 ８月 27 日	製粉会館 （東京）	会 場 ７名 WEB 81 名	・「喜多方市における J-クレジット制度の取組」 ～持続可能な森林・林業を目指して～ 講師：花見 栄 氏 喜多方市 産業部 農山村振興課 森林整備係 係長 ・「建築物への木材利用について」 講師：川原 聡 氏 農林水産省 林野庁 林政部 木材利用課 建築物木材利用促進官 ・「中高層木造建物の現状と今後の展開」 講師：花井 厚周 氏 株式会社竹中工務店 木造・木質建築推進本部長

（イ）時宜に適した食品表示セミナーを年４回開催した。

3. 農林水産省補助事業

(1) 令和５年度ＪＡＳの普及対策事業（令和５年度補正予算）

（令和６年１月～令和７年３月）

有機ＪＡＳ認証取得、有機ＪＡＳ資材リスト登録、オンライン化システムの支援及びその効果を実証する事業で、支援対象者に対して補助金総額 2,066 万円を 245 事業者、3 登録認証機関に交付し、その結果を集計、分析して報告書を提出した。

(2) 令和６年度ＪＡＳの普及対策事業（令和６年度補正予算）

（令和７年１月～）

有機ＪＡＳ認証取得、有機ＪＡＳ資材リスト登録、認証機関の検査員研修、リモート調査機材導入の支援及びその効果を実証する事業で、支援対象者に対して補助金の交付と調査を行う。また、生産工程管理記録等の作成の効率化の検討を併せて実施する。令和７年３月末までに補助金交付のための実施規定・申込要領作成等の公募準備を行った。繰越申請が認められたため、令和７年度内に全ての業務を終了させる予定。

4. 農林水産省委託事業

(1) 令和６年度社会的課題に対応する規格等の活用・普及推進調査委託事業

（令和６年４月～令和７年３月）

ＪＡＳの制定・活用・普及を進める事業で、優良事例のヒアリング、ＪＡＳの普及案の策定及び実行、研修会の開催、ＪＡＳ化のニーズ・シーズの収集や検討等を実施した。

5. 消費者庁委託事業

(1) 令和６年度「魚介類の名称のガイドライン」検討委託業務

（令和６年７月～令和７年３月）

魚介類のガイドラインの改正に係る検討を令和元年度は魚類について、令和３年度は甲殻類について実施してきたが、令和６年度は頭足類についての検討会を計３回開催し、その内容を取りまとめた報告書を提出した。

(2) 日本版包装前面栄養表示の様式案の作成支援業務

（令和６年９月～令和７年３月）

現在検討を進めている日本版包装前面栄養表示の様式案について、様式案の作成支援を行う業務で、検討会等を反映した様式案の作成・修正等を行い、最終稿として６様式案を提出した。

6. ＪＡＳ規格集等作成販売事業

前回の追録実施（令和６年１月）以降にＪＡＳ規格等が一部改正された品目について、その内容を整理したＪＡＳ規格集（21 冊）を追録として発行した。

7. 支援業務等事業

有機ＪＡＳ認証機関設立のためのセミナーやＪＡＳ制度の研修への講師派遣など、ＪＡＳ制度や食品表示などに関する指導・教育・研修等の支援業務を積極的に行った。

8. 諸会議の開催

(1) 総会

当協会定款に基づき、次表のとおり総会を開催し、議案について可決承認された。

期　日	場　所	議　案
（定例） 令和６年 ６月 25 日	ホテルモントレ銀座 （東京）	・令和５年度事業報告及び収支決算に関する件 ・会費及び賛助会費の額並びに納入方法に関する件 ・理事の補選に関する件 ・役員報酬及び費用に関する規程の改正に関する件

(2) 理事会

当協会定款に基づき、次表のとおり理事会を開催し、議案について可決承認された。

期　日	場　所	議　案
【第１回】	書面決議	・令和５年度事業報告及び収支決算に関する件

令和６年 ５月 14 日		・会費及び賛助会費の額並びに納入方法に関する件 ・理事の補選に関する件 ・役員報酬及び費用に関する規程の改正に関する件 ・令和６年度通常総会の開催に関する件
【第２回】 令和７年 ３月 10 日	製粉会館 （東京）	・令和７年度事業計画及び収支予算に関する件

(3) 連絡協議会

当協会の団体会員の出席を得て、次表のとおり農林水産省等との連絡協議会を開催した。

期　日	場　所	主要議題
令和７年 １月 21 日	製粉会館 （東京）	・林野行政の現状について 農林水産省 基準認証室 谷室長 ・令和６年度補正予算及び令和７年度の予算について 林野庁 林政部 木材産業課 高木課長補佐 農林水産省 基準認証室 落合課長補佐 ・ＪＡＳの普及推進等に向けて 農林水産省 基準認証室 三浦課長補佐 ・ＪＡＳ新規格の動向について 農林水産省 基準認証室 栗原課長補佐 ・ＦＡＭＩＣにおける国際標準化の取組みについて ＦＡＭＩＣ 規格調査課 安井課長 ・食品表示の現状と今後の課題 消費者庁 食品表示課 清水課長 ・情報提供等 消費者庁 食品表示課 宇野課長補佐

(4) 有機 JAS 関係団体情報連絡会

当協会の団体会員および賛助会員の登録認証機関の出席を得て、次表のとおり農林水産省との情報連絡会を開催した。

期　日	場　所	主要議題
令和６年 12 月 20 日	製粉会館 （東京）	・有機 JAS を取り巻く最近の状況と今後の取り組み ～有機同等性の交渉・来年度予算要求関係・その他～ 農林水産省 基準認証室 佐藤課長補佐

		・ベトナムにおける有機 JAS 認証関連セミナー報告とベトナムの有機食品市場の現状 農林水産省 基準認証室 清家係員 ・有機農業の推進に関する令和 6 年度補正予算および令和 7 年度予算概要 農林水産省 持続・有機農業推進チーム 増野係長 農林水産省 持続・有機農業推進チーム 橋場係員 ・ＦＡＭＩＣが実施する立入検査等の結果について ＦＡＭＩＣ 登録審査課 石川主任調査官 ・みどりの食料システム戦略の進捗と今後の展開 農林水産省　みどりの食料システム戦略グループ 清水調整官